

令和4年度事業報告

自 令和4年4月 1日
至 令和5年3月31日

1 事業概要

昨年は、国際情勢の激変により畜産業界が大きく影響を受けた年となりました。

世界的にコロナ禍から経済回復する中、飼料の急激な需要増や生産地の干ばつに加え、ロシアのウクライナ侵攻や円安などにより、飼料価格が異常に高騰し畜産経営に大きな打撃となりました。

まさに、畜産業界にとって苦難の1年でした。

養鶏業界では、昨年11月に高病原性鳥インフルエンザ発生があり、今年に入って大規模農家で続発し、養鶏農家は大きな影響を受けることとなりました。

酪農においては、コロナ禍による消費低迷と増産による需給緩和により生乳廃棄の危機を何度も迎え、飼料などの生産資材の高騰も重なり、酪農経営はかつてないほど厳しくなっています。

養豚では、全国的に豚熱ワクチンを接種した農場でも、ワクチンブレイクによる豚熱の発生があり、家畜衛生に係る経費の増大とともに農場経営の課題となっています。

肉牛においては、25年ぶりに「全国和牛能力共進会」へ参加し、千葉県の存在感を示す画期的な成果をあげることができましたが、今後さらなるブランド力の強化を図っていく必要があります。

当協会では、こうした厳しい経営環境の中、国等の実施する緊急対策に機動的に対応しながら、肉牛生産者への奨励金の交付や県産食肉の消費拡大への支援、農場での衛生管理向上のための防護柵の整備やHACCP推進を通じた飼養衛生管理基準の普及、牛乳消費拡大に係る啓発活動など様々な対策を実施しました。

特に4年ぶりに対面で開催した「畜産フェア」は、新たな試みとして木更津市のアウトレットパークで3日間の開催とし、多くの県民にPR活動を展開しました。

さらに、「牛マルキン」などの各種制度の事業事務、生産資材高騰に対する施策要請活動、9団体の事務局事務なども適切に執行しました。

2 会員及び役職員の構成（令和5年3月31日現在）

(1) 会員

区分	計
県域畜産団体	19
市町村	51
自衛防疫組織	47
農協・会社等	26
生産者組合等	11
賛助会員	6
合計	160

(2) 役員

(単位：名)

会長	副会長	専務理事	常務理事	理事	監事	計
1	5	1	1	9	4	21

(3) 職員

(職種別)

(単位：名)

区分	総括畜産 コンサルタント	畜産 コンサルタント	臨時職員	合計
人数	7	3	6	16

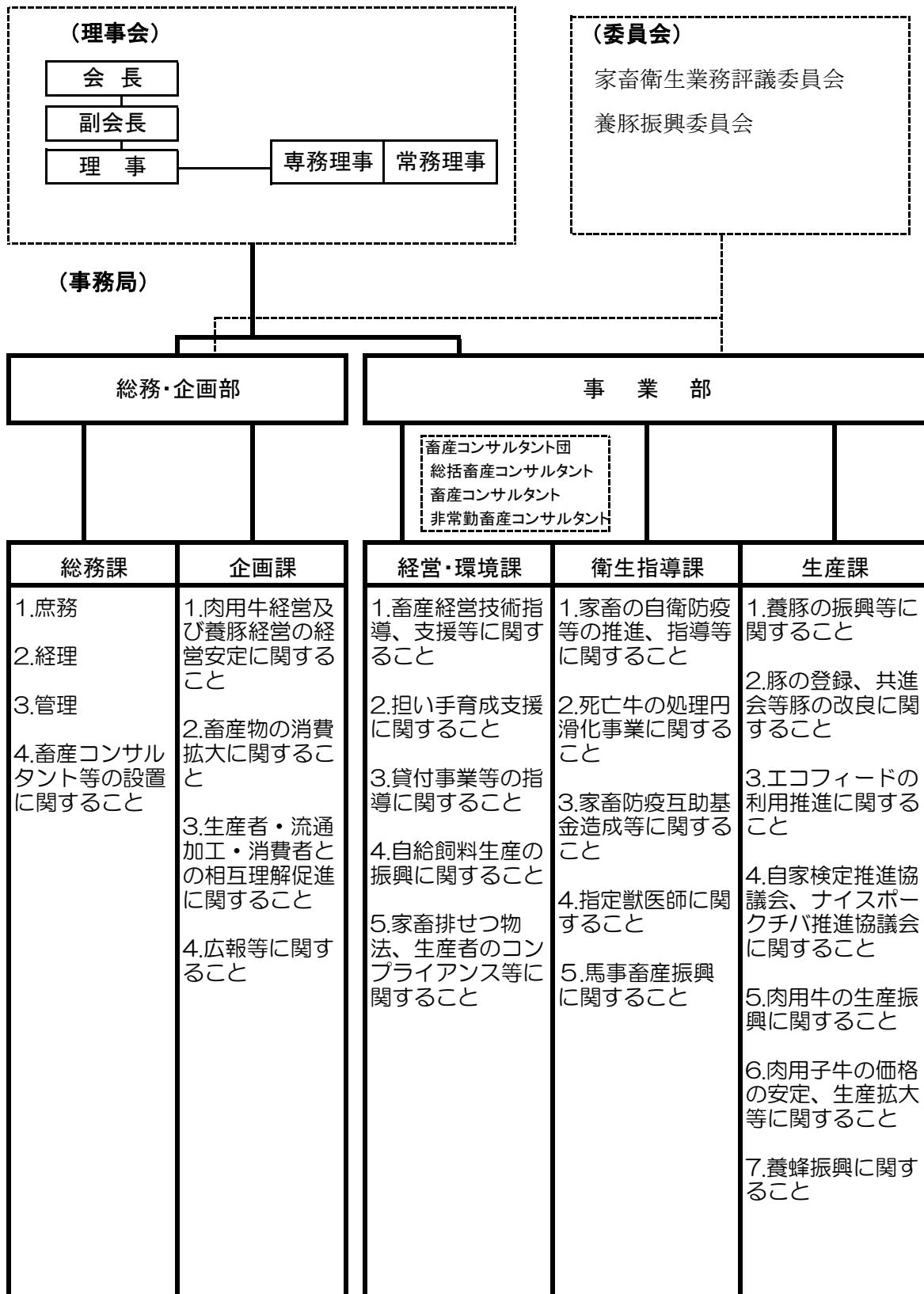
(所属別)

(単位：名)

区分	職員	嘱託及び 臨時職員	合計
専務理事	1	—	1
常務理事	1	—	1
総務・企画部	3	4	7
事業部	2	5	7
合計	7	9	16

公益社団法人千葉県畜産協会 組織図

令和5年4月1日



3 会議の開催

(1) 監事会

期日	場所	内容
令和4年5月31日	K & T 千葉ビル	令和3年度事業報告並びに貸借対照表、損益計算書及び財産目録について

(2) 理事会

期日	場所	内容
令和4年6月 6日	プラザ菜の花	<p>1) 令和3年度事業報告並びに貸借対照表、損益計算書及び財産目録について 2) 就業規則の一部改正について 3) 育児・介護休業に関する規則の一部改正について 4) 令和4年度会費の額及び徴収方法について 5) 役員の改選について 6) 肉用牛肥育経営安定交付金制度業務方法書の一部改正について 7) 役員の報酬額について 8) 令和4年度定時総会について 報告事項 ア 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について イ 会員の退会について</p>
令和4年6月27日	プラザ菜の花	1) 会長、副会長、専務理事及び常務理事の選定について
令和5年3月13日	プラザ菜の花	<p>1) 令和5年度事業計画及び収支予算について 2) 会員の入会について 報告事項 ア 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について イ 会員の退会について</p>

(3) 総会

期日	場所	内容
令和4年6月27日	プラザ菜の花	報告事項 1 令和3年度事業報告について 2 令和4年度事業計画並びに収支予算について 議案 1) 令和3年度貸借対照表、損益計算書及び財産目録について 2) 令和4年度会費の額及び徴収方法について 3) 役員の改選について 4) 役員の報酬額について

(4) 家畜衛生業務評議委員会

期日	場所	内容
令和4年6月16日	リモート	1) 令和3年度家畜衛生業務関係事業の実績について 2) 令和4年度家畜衛生業務関係事業の計画について 3) 家畜衛生業務に係る指定獣医師の諮問について
令和5年2月28日	リモート	1) 令和5年度予防接種負担金額の決定について 2) 令和5年度家畜衛生業務関係事業について

(5) 養豚振興委員会

期日	場所	内容
令和4年7月28日	旭市干潟公民館	1) 千葉県肉豚共進会について 2) 種豚改良対策基金及び助成について 3) 系統造成豚L4について 4) 補助事業について

(6) 定例会議

原則として、毎月末に常勤役職員による定例会議を開催し、翌月以降の事業の計画的な推進と進捗状況の確認及び業務の円滑化・効率化に努めた。

I 畜産経営を支援する事業

1 地域畜産支援指導等体制強化事業（地方競馬全国協会）**公益**

地方競馬全国協会からの補助金を得て、①畜産経営の支援体制の強化を図る事業、②地域畜産の活性化、安全かつ安定的な食の提供に資するための事業、③馬事普及啓発の推進体制の強化を図る事業に係る3事業を実施した。

2 畜産コンサルタント等設置事業（県）**公益**

畜産経営の経営改善を図るために、組織活動支援を含めた経営改善指導を実施した。

3 会報誌編集発行事業（協会単独）**その他**

畜産の生産から流通・消費に関する最新情報を、協会の情報誌「畜産ネットワークちば」を3回（第54～56号・1,500部）発行し、協会会員はじめ関係機関、団体に配布し畜産経営の支援等に資した。

4 地域畜産総合支援体制整備事業（県）**公益**

畜産経営の安定化に資するため、県及び関係機関・団体の協力を得て、畜産経営体に対する支援指導を行った。

(1) 畜産コンサルタント団の設置

区分	総括畜産コンサルタント	畜産コンサルタント	非常勤畜産コンサルタント
人数（名）	3	4	27

(2) 畜産経営体支援指導研究会

畜産経営技術等の支援指導・畜産経営状況調査を効果的に行うための具体的な指導内容・手法等を検討する総合委員会及び専門委員会を下記のとおり開催した。

ア 総合委員会：令和4年7月26日

イ 専門委員会：令和4年7月26日

(3) 畜産経営技術指導用機器の整備

畜産経営体の支援指導を効果的かつ効率的に行うため、経営支援用パソコン・ソナルコンピュータをリースした。

(4) 畜産経営技術の支援指導

畜産経営体等からの要請内容・経営水準・実態等に応じ、経営改善のための効果的な支援指導を次のとおり実施した。

ア 個別支援指導

畜産経営体に対する経営診断改善指導・経営管理技術指導・生産技術指導・フォローアップ指導等を下記のとおり実施した。

項目	経営診断 改善指導	経営管理 技術指導	生産技術 指導	フォローアップ 指導	計
戸数(戸)	10			10	20
件数(件)	2	2	10	30	44

(5) 畜産経営関係情報のデータベースの整備

畜産経営体に対する効果的な支援指導を行う目的で、畜産関係情報のホームページによる提供を行った。

5 貸付事業指導等事業 ((公財) 畜産近代化リース協会) **その他**

畜産近代化リース協会からの畜産機械、施設等の借受者を対象にその効果的利用を促進するため、再貸付団体の協力を得て、19基について確認調査並びに指導を実施した。

1 再貸付団体

No.	再貸付団体名	生産者 数	No.	再貸付団体名	生産者 数
1	全農千葉県本部	1	5	県みるく農協東部支所	2
2	八千代酪農	4	6	県みるく農協南部支所	8
3	千葉酪農協	1		計	19
4	県みるく農協中央支所	3			

2 貸付施設等

No.	貸付施設区分	調査数
1	自給飼料生産利用機械施設	4
2	生乳生産合理化施設	9
3	畜舎環境改善機械施設	6
4	生乳処理流通施設	0
	計	19

6 畜産特別資金等推進指導事業 ((公社) 中央畜産会) **公益**

大家畜改善緊急支援資金、大家畜経営維持緊急支援資金、大家畜特別支援資金養豚改善緊急支援資金及び養豚経営維持緊急支援資金借入者の経営改善に資するため、県支援協議会（本協会事務局）を開催するとともに現地調査等を実施し、経営改善方策等について検討の上、借入者に対する助言指導を行った。

維持緊急支援 2 経営（養豚 2)

改善緊急支援 2 経営（酪農 1 肉用牛 1)

特別支援資金 1 経営（酪農 1)

7 肉用牛経営安定対策補完事業 ((独)農畜産業振興機構) 公益

肉用牛繁殖基盤の強化を目的とし、肉用牛ヘルパー活動（削蹄、出荷、除角など）の推進を図った。

(1) 肉用牛ヘルパー活動推進

2カ所（安房・香取）各肉用牛ヘルパー利用組合の飼養管理、削蹄補助、出荷ヘルパー等の利用の推進を図った。

8 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業に係る事業推進業務 公益

畜産クラスター協議会に参画する中心的経営体が行う畜産クラスター計画実現のための収益力強化等の取組みについて、本県の窓口として業務を行った。

(1) 機械導入事業 ((公社) 中央畜産会)

地域における中心的経営体の収益性の向上等に必要な機械装置の導入を支援する本事業の千葉県の窓口として、事業要望（R4年84件、R5年174件）、参加申請（28経営体）の取りまとめ等を実施し円滑な事業推進を図った。

また、機械導入状況調査に係る現地調査（6件）等も実施した。

(2) 生産基盤拡大加速化事業（肉用牛）((一社) 全国肉用牛振興基金協会)

輸出の拡大に向けて和牛の増産を推進するため、優良な繁殖雌牛を増頭し、輸出に適した和牛肉の増産を図る取組みに必要な経費を支援する事業の要望、参加申請の取りまとめ等を実施し円滑な推進を図った。

事業参加戸数：7戸

奨励金交付対象牛：41頭（24.6万円：19頭、17.5万円：22頭）

9 畜産経営体生産性向上対策事業(畜産ICT事業)及び酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業(楽酪GO事業)に係る事業推進事務 ((公社)中央畜産会) 公益

酪農家における労働負担軽減・省力化等の取組みに必要な機械装置の導入(畜産ICT事業)及び導入と一体的な施設の整備(楽酪GO事業)を支援する本事業の本県窓口として、事業の普及、事業推進指導業務を行った。

10 養豚経営安定対策補完事業 ((独)農畜産業振興機構) 公益

養豚経営の安定化を図るため、更なる経営コスト削減及び生産性や能力評価に必要な一代雑種雌豚を導入し、養豚経営の体质強化を図った。

5団体 養豚生産者9名、純粋種豚3頭、一代雑種雌豚262頭導入

11 畜産経営災害総合対策緊急支援事業(養豚経営災害緊急支援対策事業) ((独)農畜産業振興機構) 公益

災害等による停電時における家畜の生命維持に要する機械の稼働のための非常用電源を整備することにより、養豚経営の体質強化を図った。

非常用電源の整備 対象戸数：2戸 整備した非常用電源数：3基

1.2 家族経営における畜産DX推進事業 ((公社)中央畜産会) 公益

畜産経営における生産性の向上や労働負担の軽減等に向けて、畜産のデジタルトランスフォーメーション（畜産DX）を推進するために、技術導入（発情発見装置及び分娩監視装置）が労働負担軽減や所得向上に与える効果を調査した。

1.3 生産技術情報提供事業 ((公社)中央畜産会) その他

家畜の生産技術指導に資する情報を整備するため、家畜の生産・出荷成績等のデータの収集及び収集したデータの分析結果に基づく助言指導を実施した。

II 家畜衛生向上及び環境に関する事業

1 家畜生産農場衛生対策事業 (国庫) 公益

牛ヨーネ病、E B L、B V D対策及び予防接種によるアカバネ病等の発生・流行防止対策を推進し、自主的な家畜防疫意識の向上と家畜の損耗防止を図った。

(1) ヨーネ病対策

ヨーネ病発生農場の清浄化を図るため、検査・自主とう汰に対して助成した。

- ・検査 83頭 3農場
- ・とう汰推進 4頭 3農場

(2) E B L感染拡大防止対策

E B Lの感染拡大防止を推進するため検査等に対して助成した。

- ・抗体検査等 504頭 6農場
- ・吸血昆虫の忌避・駆除対策 1件(防虫ネット導入補助)

(3) B V D対策

B V D病の清浄化を推進するため、発生農場等の重点的な検査、本病の持続感染牛のとう汰等に助成した。

- ・検査 8, 655頭 16農場
- ・P I牛のとう汰推進 5頭 3農場

(4) 疾病流行防止支援対策事業

牛の異常産の発生・流行を防止するため、下記のワクチン接種について助成した。

アカバネ病（单味）	異常産（3種混合）	異常産（4種混合）
2, 806頭	5, 557頭	3, 459頭

2 家畜防疫互助基金支援事業 ((公社) 中央畜産会) **公益**

畜産経営に甚大な影響を及ぼす海外悪性伝染病（口蹄疫、牛肺疫、牛痘、豚熱、アフリカ豚熱の5疾病）の発生に備え、牛及び豚飼養農家による互助基金の造成を支援し、万一の発生に際して同額の補助金（(独) 農畜産業振興機構助成）を加えた互助金を交付し、損害及び経営再建への支援を図る。令和4年度は事業期間（令和3年度～令和5年度までの3か年）の2年目にあたる。

今期（令和4年度）の加入状況

牛			豚		
戸数	頭数	基金造成額	戸数	頭数	基金造成額
447戸	61,329頭	9,168,295円	139戸	584,818頭	78,073,275円

3 牛疾病検査円滑化推進対策事業 (国庫) **公益**

牛海绵状脳症（BSE）検査が必要な96ヶ月齢以上の死亡牛の円滑・適正な処理を推進するため、死亡牛の発生農場から化製場までの輸送費及び焼却処理経費に対し助成した。

- ・輸送費（137頭）、適正処理費（123頭）

4 馬飼養衛生管理特別対策事業 ((公社) 中央畜産会) **その他**

馬の生産、流通の国際化等に伴い馬インフルエンザ等の侵入、流行の危険性が大きいことから、競走馬以外の馬の獣医療実態調査、飼養衛生管理技術講習会等を行い、馬防疫の意識向上に努めた。

- (1) 馬飼養衛生管理体制整備委員会 6月 書面開催
- (2) 地域馬獣医療技術基礎調査 10月～11月
乗馬クラブ等の馬飼養者を対象に「馬飼養衛生管理基準に基づく衛生管理区域の設定状況による予防衛生対策等に関する調査」を実施。
- (3) 飼養衛生管理技術講習会 令和5年1月19日 千葉市生涯学習センター
「馬の歯の管理に関するここと」JRA 競馬学校講師

5 馬伝染性疾病防疫推進対策事業 ((公社) 中央畜産会) **その他**

地域における自主防疫活動の強化を図るために検討会を開催し、競走馬以外の乗用馬等を対象とした馬インフルエンザワクチン接種の推進、軽種馬の育成馬、繁殖牝馬を対象とした各種ワクチン接種の推進を図った。

ワクチン種別	馬インフルエンザ	三種混又は日本脳炎
対象馬	乗用馬	軽種馬（育成馬・繁殖牝馬）
頭数（頭）	538	45

6 家畜防疫・衛生指導対策事業 ((公社) 中央畜産会) **公益**

(1) 地域自衛防疫推進

千葉県における自衛防疫を強化・促進するための会議の開催、悪性伝染病発生時の防疫演習の実施

ア 地域自衛防疫取組促進

ア) 家畜衛生業務評議委員会議の開催（2回）

令和4年6月16日（リモート） 11名

令和5年2月28日（リモート） 10名

イ) 防疫演習の実施

a 急性悪性家畜伝染病発生時防疫活動に係るサブリーダー演習

令和4年9月20日 千葉市 25名

b 高病原性鳥インフルエンザ発生に係る防疫演習

令和4年10月26・27日 山武市 145名

(2) 地域疾病対策

船橋競馬場競走馬防疫会（事務局：千葉県競馬組合）による馬伝染性貧血に係る競争用馬の抽出サーベルアンス検査実施 60頭

(3) 地域農場HACCP認証支援

農場HACCPの普及促進を図るため、農場HACCP推進農場の実態を調査するとともに、認証に向けて取組む農場に対して技術指導者を派遣し、効果的な指導・支援を行い、認証普及を図った。

ア 普及推進協議会等会議の開催

ア) 普及推進協議会（2回）令和4年7月22日、令和5年3月8日

イ) 地域取組促進活動（2回）令和4年8月16日、9月14日

イ 地域農場HACCP認証構築指導

ア) 意見交換会（2回）令和4年7月22日、令和5年3月8日

イ) 構築指導

対象農場：酪農8農場、肉牛26農場、豚25農場、採卵鶏4農場

ブロイラー2農場 計65農場 農場HACCP指導員：20名

7 市町村等自衛防疫活動支援事業 (協会単独) **公益**

当協会で実施する家畜衛生業務の円滑かつ的確な推進を図るため、市町村家畜防疫会等の行う自衛防疫活動に対して支援・指導を行った。

- ・活動支援助成金交付先 市町村家畜防疫会 46団体

	R 4 実績	備 考
標準活動費	920,000 円	@20,000 円×46 市町村
事業活動費	141,000 円	牛・豚予防接種の実績配分 単価：牛 10 円、豚 0.5 円
合 計	1,061,000 円	

8 特定疾病損耗防止事業（協会単独）公益

下記疾病に対して予防接種を推進した。

牛伝染性鼻気管炎ワクチン	1,764頭
豚丹毒生ワクチン	2,700頭
日本脳炎・パルボワクチン	327頭
異常産ワクチン（3種混合、4種混合）※	108頭

※ 県立農業高校

9 養鶏研修会（協会単独）公益

高病原性鳥インフルエンザの防疫対策等に資するため、養鶏農家及び関係機関・団体・業者等を対象に研修会を開催した。

10 家畜伝染性疾病防疫活動円滑化推進事業（協会単独）その他

口蹄疫やP E Dなどの家畜伝染性疾病の発生時に、消毒用機器や防疫対応資材を速やかに運搬するための車両を千葉県に貸し出すことで県内の防疫活動を円滑に推進した。

11 生産農場衛生対策緊急強化事業（協会単独）公益

豚熱等の国内発生などにより飼養衛生管理基準の改正・強化に対応するため、飼養衛生管理基準改定の啓発・普及を図るとともに、農場の外国人労働者等への衛生教育研修等を実施した。

- (1) 飼養衛生管理基準パンフレット配布（外国人技能実習生用 200 部）
- (2) 外国人研修生等を対象とした衛生研修会の開催

旭市：養豚 3 農場、参加者 23 名

（うち通訳：タガログ語 1 名、ベトナム語 1 名）

III 畜産の活性化を進める事業

1 地域畜産支援指導等体制強化事業 ((公社) 中央畜産会)その他

（畜産関係団体調整機能強化事業）

畜種を越えた畜産に携わる女性の集まり「ちば畜産レディースネットワ

ーク」の活動を支援した。

2 畜産フェア（協会単独）公益

三井アウトレットパーク木更津（ピアストリート広場）において4年ぶりとなる対面での畜産フェアを開催し、さらに復活祭との位置づけから初の試みとして3日間にかけて実施。千葉県畜産のPR、県産畜産物や県産食品の消費拡大及び食育等の推進を図った。

IV 畜産物の品質向上を図る事業

1 養豚改良対策事業その他

登記登録を含めた業務を通じ本県の豚の改良推進と強化を図った。

（1）登録事業（協会単独）

優良種豚改良の基本となる登録を（一社）日本養豚協会登録規定に基づき実施した。

種豚登録95頭、子豚登記414頭、肉豚証明1,169頭

（2）肉豚共進会事業（協会単独）

肉豚の改良成果を競い合い、もって種豚の重要性と品質の高い豚肉生産技術の向上を図るため関係機関の協力を得て開催した。

肉豚の部：10月4日～6日 出品頭数 76頭

（3）優良種豚場認定事業（（一社）日本養豚協会）

能力（繁殖性・産肉性）の高い種豚の改良・確保が最も重要なことから、種豚の生産基盤強化と登録事業の推進を図るため（一社）日本養豚協会認定規定に基づく認定により育成強化を図った。

遺伝資源保存指定種豚場 3場

（4）原種豚認定事業（協会単独）

（一社）日本養豚協会指定種豚場を対象とした事業として、本県純粋種豚の改良、資源確保のため本事業により助成・強化推進を図った。

認定農場に対する助成 3農場

血統能力の証明に対する助成

種豚登録66頭・子豚登記204頭・肉豚証明1,169頭

2 千葉県産オリジナル豚肉生産体制評価事業（県）その他

飼養管理に優れたL4導入農場におけるL4由来の一代雑種（L4W）及び肉豚（L4WD）の繁殖成績及び産肉成績について、農場間の成績比較や一般豚と系統豚の成績比較を実施し、飼養改善と成績の向上を図った。

また、普段生産者が把握しづらい出荷肉豚の肉質及び官能検査を実施した。

調査農場 5 場 L 1 5 腹 LW 1 3 腹

V 畜産経営の安定化を図る事業

1 肉用子牛生産者補給金制度 ((独)農畜産業振興機構) 公益

肉用子牛生産安定等特別措置法に基づき、生産者補給金の交付等の事業を通じ、肉用子牛生産の安定と経営の健全な発展に努めた。

① 令和 4 年度生産者補給金交付契約締結者 112 人

② 事務委託先契約締結数 11 件

1) 契約肉用子牛の個体登録

(単位 : 頭)

区分 品種	令和 4 年 1 月 1 日～ 3 月 31 日	令和 4 年 4 月 1 日～ 6 月 30 日	令和 4 年 7 月 1 日～ 9 月 30 日	令和 4 年 10 月 1 日～ 12 月 31 日	計
黒毛和種	221	291	250	256	1,018
乳用種	502	439	359	278	1,578
交雑種	2,283	2,337	1,951	1,886	8,457
計	3,006	3,067	2,560	2,420	11,053

2) 生産者積立金の積立額

(単位 : 円)

品種	契約 頭数	積立 単価	積立額	負担区分		
				農畜産業 振興機構	千葉県	生産者
黒毛和種	1,018	1,600	1,628,800	814,400	407,200	407,200
乳用種	1,578	6,800	10,730,400	5,365,200	2,682,600	2,682,600
交雑種	8,457	3,200	27,062,400	13,531,200	6,765,600	6,765,600
計	11,053	—	39,421,600	19,710,800	9,855,400	9,855,400

3) 生産者補給金交付状況

令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 1 2 月 31 日

(単位 : 円、頭)

品種区分	交付対象		奨励金交付額	
	人数	頭数	単価	交付額
乳用種	5	284	14,500	4,118,000
	4	358	36,600	13,102,800
その他肉専用種	6	7	8,200	57,400
合計	15	649	—	17,278,200

2 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業

(（独）農畜産業振興機構）**公益**

（1）肉用子牛生産者補給金制度運営適正化推進事業

肉用子牛生産者補給金制度にかかる業務の適正な実施を図るため、全国統一電算処理システムによる業務の充実と事務委託先との個体登録個体識別及び販売・保留確認等の業務の委託により適正かつ円滑な実施に努めた。

（2）指定協会運営体制支援事業

生産者補給金制度の推進のための実施体制の確立と運営基盤の安定化のために、財政的支援を得て協会運営の財政基盤の強化を図り、肉用子牛生産者補給金制度の適正な運営に努めた。

3 優良肉用子牛生産推進緊急対策事業 （（独）農畜産業振興機構）**公益**

肉用子牛の価格が短期間で大幅に下落し、生産者の経営環境が急激に悪化、生産者の意欲低下により肉用牛生産基盤の弱体化が懸念される。

このような中、経営改善に取り組む肉用子牛生産者に対して、肉用子牛の平均価格が発動基準を下回った場合に、販売頭数に応じた奨励金を交付、肉用子牛生産者の意欲を維持し、肉用牛生産基盤の弱体化防止を図った。

区分	品種区分	交付対象		奨励金交付額	
		人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭／円)	交付額 (円)
令和4年 6～12月	黒毛和種	—	—	—	—
	褐毛和種	—	—	—	—
	その他の肉専用種	—	—	—	—
	乳用種	13	272	30,000	8,160,000
	交雑種	—	—	—	—
合 計		13	272	30,000	8,160,000

4 和子牛生産者臨時経営支援事業 （（独）農畜産業振興機構）**公益**

優良肉用子牛生産推進緊急対策事業の終了に伴い、和子牛生産者のセーフティーネットとして、臨時の措置された事業であり、和子牛（黒毛和種、褐毛和種、無各和種、日本短角種（これらの品種間交雑種含む））の平均売買価格が発動基準価格を下回った場合に、販売頭数に応じた支援金を交付、肉用子牛生産基盤の安定を図った。

交付対象月：令和5年1～3月（発動なし）

5 肉用牛肥育経営安定交付金制度 （（独）農畜産業振興機構）**公益**

畜産経営の安定に関する法律に基づく法律制度であり、標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合に肉用牛の生産者に対し、その差額の9割を交付金として交付することにより、肉用牛の生産者の経営に及ぼす影響を緩和することを目的としている。当協会では、（独）農畜産業振興機構の委託を受

け、交付金の交付業務等を行うことで肉用牛経営の安定に努めた。

[交付金交付状況] (令和4年4月期～令和5年3月期)

品種区分	交付対象		交付金の額 (円) (4/4)	交付金として 支払う額 (3/4)	積立金から 支払われる額 (1/4)
	人数 (延べ数) (人)	頭数 (頭)			
肉専用種	394	2,177	81,963,608	61,472,559	20,491,049
交雑種	436	8,266	189,560,948	142,170,557	47,390,391
乳用種	108	2,234	97,260,816	72,945,575	24,315,241
合 計	938	12,677	368,785,372	276,588,691	92,196,681

6 千葉県肉豚経営安定対策事業 (県) **公益**

(独) 農畜産業振興機構が実施する肉豚経営安定交付金制度の負担金の一部を助成し、養豚経営の安定と肉豚の安定的な生産確保に努めた。

養豚事業者数 159名 補助単価 1頭当たり 40円

7 畜産飼料価格高騰緊急対策事業 (県) **公益**

輸入原材料価格高騰により、経営に著しい影響を受けている畜産農家に対して、配合飼料及び粗飼料の購入に要した経費に係る臨時的な支援金の給付を行い畜産農家の経営安定を図った。

対象農家戸数	事業量	単価	支援金額
養豚 6戸	配合飼料 15,520トン	600円/トン	9,312,000円
肉用牛 164戸	粗飼料 乳用牛 474頭 肉用牛 37,430頭	5,000円/頭 1,000円/頭	2,370,000円 37,430,000円
計 170戸			計 49,112,000円

VI 特別事業

1 種豚改良対策基金 (協会単独) **その他**

指定種豚場を対象とした原種豚農場の認定による本県純粋種豚の改良の促進と品質の高い豚肉を効率よく生産するための各種事業推進を図りこの基金を有効に活用した。

VII その他

1 千葉県畜産物消費拡大推進協議会関連事業

三井アウトレットパーク木更津(ピアストリート広場)において4年ぶりとなる対面での畜産フェアを開催し、さらに復活祭との位置づけから初の試

みとして3日間にかけて実施。千葉県畜産のPR、県産畜産物や県産食品の消費拡大及び食育等の推進を図った。

[実施概要]

日時：令和4年11月3日（木・祝）・4日（金）・5日（土）

場所：三井アウトレットパーク木更津 ピアストリート広場

木更津市金田東3丁目1-1

内容：ア) 農畜産物の販売：卵・卵加工品、豚・牛の焼肉・加工品、牛乳（試飲）・乳製品、はちみつ、旭市産ピッグスキンレザー加工品等の千葉県産品の販売。キッチンカーによる県産牛肉・豚肉料理の販売。

イ) 大抽選会：畜産フェア内の購入やアンケートの回答で抽選券を配布し、3日間の合計で延べ2,500名の方に豪華畜産品等をプレゼントした。

ウ) その他：展示・体験コーナー等設置。

また、他団体が開催したイベント等に積極的に参加しPR活動を実施した。

2 千葉県養蜂協会関連事業

(1) 養蜂振興推進事業（県委託事業）

養蜂振興法に基づき、県外からの転飼者の調整を実施した。

また、蜜源植生状況調査、花粉交配実態調査、蜂蜜等生産量調査並びに寄生虫の発生状況調査を実施した。

(2) ポリネーション推進事業

県果樹連等と交渉し、梨花粉交配用蜜蜂を貸し出した。

(3) 販売対策事業

千葉県畜産賞「三里塚賞（準重賞）」の副賞として蜂蜜を提供した。

(4) 蜜源増殖対策事業

蜜源植物の苗木（椿、桜等）を共同購入し会員に配布、植栽を行った。

(5) 防疫対策事業

ダニ駆除薬等（アピスタン、アピバール）を共同購入し、会員に配布した。

(6) 養蜂飼料等斡旋物資対策事業

一般社団法人日本養蜂協会の斡旋による輸入免税砂糖等の共同購入を行い、会員に配布した。

3 千葉県馬事畜産振興推進事業

(1) 令和4年8月19日令和4年度千葉県馬事畜産振興協議会総会を開催し、令和3年度事業報告及び収支決算、令和4年度事業計画及び収支予算について審議・決議した。

- (2) 令和4年12月20日船橋競馬場において、千葉県馬事畜産振興協議会として冠レース「三里塚記念（準重賞）」を実施し、優勝馬関係者に対して賞状並びに副賞を授与した。

4 ナイスポークチバ推進協議会関連事業

生産者自らの資金拠出による活動の柱である、県産（国産）豚肉の消費拡大、養豚経営安定強化のための政策要請、後継者育成等の活動により、養豚経営の安定強化と産業振興を図るため、協会として生産者の活動を支援するための事務を取り扱った。

[活動と実績]

- (1) 通信・ポスター作成配布による組織強化と会員加入推進
- (2) 経営安定と生産性向上のための関連行事への協賛
- (3) サポーター会員制度による消費者交流により、県産（国産）豚肉に関する情報提供及びPRによる消費拡大推進
- (4) 千葉県畜産フェアに参加し、県産豚肉及び養豚産業情報をPRし消費拡大を推進
- (5) 県及び自民党県議会議員会畜産振興議員連盟に対し配合飼料価格高騰に対する支援要請
- (6) 畜産関係団体と連携し飼料高騰支援を求め県知事と意見交換会開催
- (7) 農林水産省消費・安全局動物衛生課及び畜水産安全管理課担当官との豚熱及び疾病対策に関する意見交換会開催
- (8) 農林水産省からの要請を受け、アフリカ豚熱（ASF）水際対策の一環として成田国際空港での防疫キャンペーンに参加
- (9) 養豚経営安定対策事業（全国肉豚）の業務委託に伴う農家指導
- (10) 登録事業委託団体として豚の改良推進
- (11) (一社)日本養豚協会（JPPA）との連携による活動
 - ア 自民党衆参国會議員で創る養豚農業振興議員連盟へ、飼料価格高騰対策に向け予算拡充等を要請
 - イ 豚熱（CSF）緊急要請と対策に関する情報の共有
 - ウ 生産者からの要請により、(公社)日本食肉格付協会が行う豚枝肉格付上物上限規格80kgが83kgに改正承認

5 千葉県自家検定推進協議会関連事業

原種豚の確保と能力の高い種豚の改良を担う生産者に対し、協会の執行事業関連事務を取り扱った。

6 ちば畜産レディースネットワーク関連事業

畜種を越えた畜産に携わる女性のネットワークとして、平成19年3月に設立。会員は女性経営者をはじめ県関係機関・団体女性職員等で、会員相互の情報交換・研修・消費者交流等の活動への支援、事務を取り扱った。

7 NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター関連事業

畜産に関わる生産者等への支援や畜産振興に向けた消費者等との交流を図るために設立したNPO法人の会員数は団体・個人会員及び賛助会員を含め80名である。

畜産協会が行う下記の畜産支援事業や人材情報システム運営及び団体事務受託、消費者交流・動物情操教育事業について実施した。

(1) 畜産経営支援事業

- ア 畜産情報収集・提供事業
- イ 地域農場HACCP認証支援事業及びJGAP支援
- ウ 馬事畜産振興推進事業
- エ 死亡牛等の受入及び保管等補助業務（千葉県公募事業）
- オ 生産農場衛生対策緊急強化事業（千葉県畜産協会事業）、外国人技能実習生等を対象とした出前講座の開催、6か国語訳パンフレットの作成配布

(2) 人材情報システム運営及び団体事務受託

県立農業大学校畜産関係非常勤講師を派遣

(3) 消費者交流・動物情操教育事業

- ア 畜産フェアに参加し、農場HACCPパネルの展示及びパンフレット配布、消費者アンケート調査を実施。また、認証農場の酪農2、採卵鶏1（チーズ、菓子、牛乳、若鳥卵等）が出店協力。「畜産なんでも相談」コーナーを設け畜産に関する悩みにアドバイスした。
- イ 千葉県馬事畜産振興協議会の冠レースなどの事業活動に参加した。

8 チバザビーフ協議会関連事業

(1) 県産牛肉ブランド力向上対策事業（県補助事業）

県産牛肉のブランド力向上に不可欠な出荷頭数の拡大と高品質化及び銘柄牛肉の知名度向上に努めた。

ア 推進活動

総会（7月）、理事会・専門部会（6月）及び講習会（12月、全国和牛能力共進会活動報告会）を開催した。

イ 広報活動

- ・たまごニコニコ大作戦@千葉（プレゼント企画、5月、三井アウトレットパーク木更津（木更津市））協賛
- ・全国和牛能力共進会（銘柄牛PR、10月、鹿児島県霧島市）

- ・その他 各銘柄でのチバザビーフPR活動支援、イベント等でのPR大使の出演など

(2) 育肥技術向上対策

ア 枝肉品評会の開催

千葉県肉牛生産者の研鑽の機会を創出し、飼養管理技術の向上を図るとともに、食肉流通業者等へ県産牛肉の知名度向上を図るため、集荷量日本一の東京中央卸売市場において枝肉共励会・研究会を開催した。

枝肉共励会 年1回(令和5年2月)

〈出品頭数〉 87頭(黒毛和種 49頭、交雑種38頭)

枝肉研究会 年2回(令和4年6月、10月)

〈出品頭数〉 6月: 63頭(黒毛和種 38頭、交雑種 25頭)

10月: 80頭(黒毛和種 33頭、交雑種 47頭)

イ 育肥技術のより一層の向上を目指し、枝肉成績分析及び血液検査分析(代謝プロファイルテスト)を実施した。

【枝肉成績分析】

分析期間: 令和4年1月～12月

分析戸数: 61戸

分析頭数: 黒毛和種・去勢 1, 666頭

黒毛和種・雌 467頭

交雑種・去勢 3, 068頭

交雑種・雌 2, 070頭 合計 7, 271頭

【血液検査分析】

分析戸数: 11戸(希望者には年2回実施)

分析頭数: 黒毛和種・去勢 69頭

黒毛和種・雌 8頭

交雑種・去勢 55頭

交雑種・雌 28頭 合計 160頭

9 チバザポーク販売推進協議会関連事業

千葉県の銘柄豚肉出荷団体が連携しチバザポークの知名度向上と販売促進に努めた。

主なPR活動

- ・ウイークリー千葉県
- ・いい歯のイベント(京成ホテルミラマーレ)
- ・千葉県畜産フェア(三井プレミアムアウトレット木更津)
- ・アクアラインマラソン2022
- ・ちばまるしぇキャンペーン
- ・千産フェア(ペリエ稻毛)